

リベルテール

1月号



Libertaire VoL, VI, No 2

無政府主義者の機関紙

昭和45年9月4日第3種郵便物認可
昭和50年1月15日発行第61号

リベルテール 定価一〇〇円(郵便料共)

- リベルテール Le Libertaire
- 1975年1月15日発行 VoL, VI, No. 2
- 編集兼発行者 三浦精一
- 発行所 東京都練馬区大泉学園町2190 萩原晋太郎方 リベルテールの会

目次	
巻頭言	1
「私の紹介」	2
へいたづら小鬼のゆくえ	4
失業者独言	7
思い出のニコマ	9
海外だより	11
野火	13
現代迷文鑑賞	14
編集室だより	16

巻頭言

1975年1月

台湾生れの中村輝夫陸軍一等兵が、モロタイ島で三二年ぶりに救い出された。

新聞の報道によれば

「台湾がシナの国になったのか、日本の国なのかは知らない。だが、とにかく私の故郷は台湾だ」

こう彼は語ったという。国家↓軍隊↓戦争、その狂暴さは、ここでははぶく。

中村氏の国籍は、誰がどうやってきめるのか。ポツダム宣言と対日平和条約で、日本は台湾領を放棄した。そうして台湾は、日本帝国主義以前の状態にもどったそうだ。

それでは、台湾人の血を引き台湾に生れ台湾に育った人々の人権は、世界にみとめられ回復されたか。そして、侵略主義の犠牲となった数知れぬ台湾の人々に、日本は何を償ったか。

いずれも否！

私たちは敗戦後「世界の軍備を撤廃せよ」と叫び、「占領軍は即時撤退し、日本を永世非武装中立地とせよ」と主張した。だが、ひとつかみのアナキストの声は、ほと

んど無視された。

同じように今なお、

「台湾は蒋介石のものでも毛沢東のものでもない。台湾を台湾人の自治にまかせよ」

と民族自決を説き、圧迫されつづけている台湾の人々がいることを私たちは忘れてはならない。

その一人、中学生のとき兵隊にかり出された林景明氏も今なお苦闘されている。

林氏に連帯し林氏の人権を守る闘いをおし進めることは、日本人の責務である。読者諸兄姉はまず、最小限の共通の認識を持つためにも、次の資料を購読されるよう切望する。

(74・12・30 萩原)

参考文献

『林景明、日本 国籍確認裁判資料集』 送料共一五五円

『台湾から奪っているもの』 送料共二五五円

発行所・東京都目黒区下目黒三―三四―一六

原 文子方「林景明氏を支援する会」

私の紹介 『中国アナキズムの影』 (1)

(玉川信明著)

三 浦 精 一

日本でもシナでもアナキズムに触れたのはインテリである。このインテリの在り方がちがうのである。大部分が文盲であるシナで社会生活はそれが円滑に行われて行くためのいろいろな伝統的規制を持っている。民衆の中で生れ伝承されて行く生活様式であり、倫理である。これが無政府的と言われるものである。こうした中で文字は一種の呪術的なものであり、文字を知る者は師表と仰がれる。国家試験に合格した者は、官吏となつて一族の生活を保証することもできる。憎悪される官吏も一族の面倒を見る点で尊敬もされる。流動性の強い日本と比較して保守性の強い固定的とも言える長い伝統的構造をもつシナの社会で、革命的思想としてのアナキズムが深い倫理性を持っていなかったら、それこそ無価値なものと言えるだろう。毛沢東もその生活においてはストイックであると言われる。革命は決して単なる暴力や政權獲得だけで成就するものではない。

山鹿泰治君の活躍、上海労働大学、岩佐老人、エスペランティストなどについて興味深い第四章のあと、第五章

以下で毛沢東とアナキズムについて扱っている。毛沢東の伝記もその著書も読んだことのない私にとって、これは一つの毛沢東像をあたえてくれる。

毛沢東はアナキズムに触れ、アナキストと自分でも称した時がある。それは彼が二十六歳の頃までである。毛沢東の少年期、青年期を知的に形成したものがシナの古典とアナキズムだと言えるだろう。こうした形成期のものが、その人の一生を支配することは誰でもが知っている。人間はそう変化できるものではない。変化することもある。宗教的な回心がそうだ。これはその人にとって真の革命である。主義や思想は理性的に納得し、ある人はそれに止まり、ある人はそれを実行に移さねばならぬと決意し、実践に入るが、不退転の者もあれば、続かぬ者、続いても転身する者もある。不退転であつても人間の知性的な成長に伴い内容が豊かになる者も、そうでない者もある。いずれにせよ実践には宗教的な熱情をとまなう。その実践は世俗的な常識を超えたものだからである。毛沢東が井岡山にあって転戦しているとき、解放区の農民たちが無政府の状態で、平和に生活を営む姿、そして農民たちの中では売淫も賭博もなくなった事実にあられる倫理的な無政府主義的な体質や共感毛沢東にも深く根を持っているであらう。

マルクス主義に転向した毛沢東は、意識したかどうか分らないにしても、天の命を感じたのだろう。シナ式の革命家になったのである。民衆とともに生き、民衆の中から権力の否定を実現して相互扶助の社会を築こうとするレヴォリュショニストであることをやめて、権力を握って世界各国に伍して中華を誇示しようとする民族主義革命家、天子、独裁者への道を選んだ。彼がエドガー・スノーに語ったという「私はいわば、破れ傘を片手に歩む孤独な修道僧にすぎないのだ……」という言葉は、漢の高祖劉邦が人を避けて一人宦官の膝枕にふせていたその死の前年の孤独な姿を思い出させる。

権力革命への道、それは毛沢東の言うように、紳士連中の宴会ではなく、一つの階級が他の階級を打ち倒す猛烈な行動であり、そのためには匪賊の群にも加わったり、

★多国籍企業に反対するデモ

ワルト誌は環境破壊に反対する理論誌である。ここで本年三月二十一日「地球日」に人類と資源を組織的に収奪する多国籍企業の在り方に付いて討論すると共にデモをするそうだがその参加要請状が届いた。現在WRI米国支部、ニューヨークアナルコフェミニスト、生活芸術コレクティヴ、エコロジーアクション等が企画参加している。興味の人はリベルテール迄。

(Y・H坂)

冷酷な血の肅清を何回も繰返さねばならなかった。毛沢東が他の王朝の創始者と異なる所は、常に思想改造ということを念頭においていることであらう。彼が呼号する文化大革命もその一環だが、彼は民衆の中の恐ろしい活力を知っている。彼の湖南農民運動の視察報告にもそれが書かれている。海陸豊ソヴィエトを利用もし、弾圧もした。紅衛兵を利用して後で押えたし、都市人民公社の運動も上海だけで他を抑圧した。「もしも全国いたるところに人民公社ができたなら、中華人民共和国は中華人民公社と改名しなければならぬか」と言っている。コミンに言う無政府的な民衆を恐れる彼は、共產主義は愛であるという一大学教授に「ちがう、それはハンマーだ」と言っている。そして真に偉大な人間とは、人間の血を流すことのできる人物だとも言っている。

玉川君が「煎じつめていうと、毛共産主義のやり方は、歴代王朝の絶対権力性と愚民という形をいくらかも抜けていないということになる。抜けていないというよりは、その伝統的統治技術を利用しているのである」と結論しているのに、「我が意を得たり」と言いたい。

この本を皆に推奨したい。(三)書房発行

三浦精一

「いたづら小鬼」のゆくえ

オランダ国はチューリップと風車で知られ、最近ではハーグ事件で有名ですが、ざっと百五十年前では、蘭学によってわが国の人士が接触した唯一のヨーロッパ国でした。もちろん現代はそうした観光資源や学問だけでは食べられません。王室を戴く工業国として栄え、飲み水のライン河はご多分に洩れず汚れ、住民は一リットル幾らで水を買う有様です。またオランダ人社会は宗教の力が強く、政党はバラエティに富み、一種独特の系列化が行われているそうです。中でも有力なのはカルヴィン派、ローマンカトリック派、一般人と社会主義者ブロックの四派です。先の大戦ではドイツの占領に遭い、一九四五年の解放からは国民の統一と一体化が国是となり、反動化がすすみました。社会主義者は既に戦前から政府に入っていたのですが、どこかの国の社会党と同じく体制支持に廻り、オランダの社会の平和が世界の亀鑑になるよう、その為に民衆が労働組合から離れ、政党をみすて、政策決定から疎外されるのはかまわないのでした。世界的な事件であるインドネシアの植民地からの解放だつて、植民地政策や地域問題として処理され、その成り行

きはこの国の責任政党と政治家達の地位を脅かさなかった。共産党員はレジスタンスで勇敢に闘い、只一つの野党で戦後間もない選挙では、十二%の得票を獲得したが、例のスターリニズムでみんなご破算にしてしまったのです。五〇年代の終りから六〇年代の初めにかけて労働者は一組合の外で一高賃金をめざし闘った。テレビはへ社会の系列の中にもちこまれ新しい伝達手段になり、ジャーナリズムも一層独立を固め、学生の組合がで意識を変革しました。また特にローマンカトリック教会内では革新が行われ、若年層の購買力が強まり、阿姆斯特ダムではビートやビートニック、ポップ、ハプニング、反戦歌が始まったのです。

アナキズムとアナキストはどうしたろう？ アナキズムが課題に答える仕方は、現在の社会の中で、新しい権力闘争をせず、また新しい権威を創出することなく社会構造をどう変えるかにあり、そこでこれを対抗社会 (the counter society) の概念と呼び、ブルドンでは人民銀行を含む自由社会、アナルコ・サンジカリスト運動では連合と連帯を基調とした新社会の建設を、資本主義社会への闘争を通じて求めるのです。この概念によれば革命は社会主義社会の再編のために国家を奪取するのではなく、工場や仕事場での社会主義の勝利でなけ

ばならないのです。

オランダのアナキストは「プロボ」運動を展開した。プロボとは Provo と書き挑戦 Provocation の「プロボ」です。それはフランスの五月革命のスローガン「想像力を力に！」を採用して、権力に反対する想像力、また働く想像力を求める運動でした。思うに現状での想像力は日常生活や工場で働いていない。仕事場でも大学でも伝統的政治や反体制運動でも事情は同じ。機関誌「プロボ」はこれを表現して：「事物に対し個人的な影響を欠くことはほくらを憤激させる。ハプニングこそ少くともきみが持っていてしかるべき一部を捕える試みであり、権力がきみから取りあげるものなのだ。だからハプニングはきみが持たいたいと思う力の示威なのである―事物に影響を及ぼそう：」プロボは生きざまであって、幸福になる仕方なのだ。こうしてプロボはバクーニンが言ったように科学と科学的社会主義の抽象に反対して自発的生命力に訴える。プロボは自分をプロボタリアと呼び都市のルンペンプロレタリアに対比させたのです。プロボタリアン（プロボ運動家）は街頭デモで「想像をもとう！」と叫び、「自動車の屋根に野菜を作ろう！」と呼びかけました。一見奇異に思われるでしょうがそのシュールリアリズム的発想こそ彼等の宣伝する対抗文化 (The counter cu

lture) の意味するものです。これは現状の文化を体制文化 (The main culture, The dominant culture) と規定して、これに対する副次文化 (the sub culture) をあてるのがそれです。アメリカでのサブカルチャーには L・S・D、ポップアート、ビート、暴力（個人の責任と自由によって振る力）コミュニケーション、ヒッピー、イッピー、神秘主義と超能力、フリーセックスとファック、ウーマンシップ等、凡そ日本の若者文化のすべてがこの範ちゅうに入れられているが、プロボタリアンもこの系列に属しそれを積極的に支持しています。そしてプロボのアナキズムはピーター・ハインツの言う「静かなアナキスト革命」でした。それは体制の中で深く静かに進行する革命であり、芸術、文学、教育、科学、特に社会科学での反権威的生活及び経験にみられるもので、彼は運動の背後には必ず理念がある、アナキズムは人類とその歴史の駆動力であり、その力はより多くの自由、自己表現と自己の実現をめざすものだとのアナキスト思想家達の考えを共有していました。けれど私が資料を熟読した上で思い至ったのは、この運動に影響している思想的背景は、一九一〇―二〇年代にあったドイツ表現主義の「想像的自立世界-un imaginative autonomous Welt」だということです。現実を一つの自然だとすれば、その内的自立世界は主

体的な自由世界です。その自由世界でもって現実世界を取り替える……と考えれば先にあげた対抗文化の内実は自ら定位されます。また例をあげると今の若いアナキストをネオアナキストと仮に呼び、古いアナキストを仮に歴史的アナキストとしましょう。歴史的アナキストは労働者の解放は労働者みずからの手で！と叫んで解放運動に血をたぎらせ、倒れた人もあり、弾圧をなんとか切り抜けて次の世代へバトンタッチしました。その栄光と悲惨はアナキスト思想と歴史の遺産ではあるけれどネオアナキストは考えるのです。アナキズムの特長は断続である。切れたものは切れたままにせよ。アナキズムはここから始まる。労働者の解放は今でも重要だ。だが自己を解放した労働者の生活とは何んであるのか。テレビを持ち自動車を持し、マンションに住むことだろうか。それは文化の向上で認められるとして、解放された労働者が組合官僚になったり既得権の擁護に狂奔することでは少くともない筈である。何かが間違っている。ネオアナキストは体制の変革と同時に意識の変革も行われるべきだとするのです。プロボタリアンは観念にとどまらない。彼等は文字通り挑戦する。その一つが白色自転車ブランでした。これは二千台の白塗り自転車を買ってアムステルダム市内に常駐させ、誰でも借り出せ

それでもって自動車を駆逐して合せて大気汚染と交通渋滞を解消させるものでした。何処の国でも警察のやることは同じです。自転車はチェンでしばっておけ、パトロールを強化せよと言ってくる。プロボでは「対抗警察」を組織してこれを「白い雌雞」と名づけ、警察官とは民衆の奉仕者であり虐待者ではないことを実地に示したのです。「警察はわが親友」というのがその合言葉でした。次にプロボは内部に「オレンジ自由国」を創出しました。国家を廃絶するアナキストが国家を作るとは何事だ！まあ聞き給え。オレンジ自由国とは毎週定期的に集る各グループの集会なのだ。これを人民集会とも言いますが、そこで話合った事柄がプロボの政策になる筈だったのやその時、王室のご成婚の馬車行列に発煙筒をたたいたのがで、待ってましたとばかり弾圧され、魔女狩りが開始され、テレグラフ紙はプロボは長髪と麻薬と怠惰と反社会活動分子だとキャンペーンを仕だしたのです。警察のエスカレートは街路でレーズンを買っていた女子学生の身体検査にまで及び、遂にアムステルダムの警視庁長官と市長は世論によって失職しました。どこかの国では暴力には暴力でもってするのが一番効果的だとして、ガス銃を撃とうが、市民を失明させようが、幾らかの慰謝料で一件落着にもちこむのを常とするのですから、矢

張り文明先進国は違ったものだと感心させられます。更に興味深いのはジャーナリズムの悪宣伝にかかわらずこのプロボが市議員選挙にでて一万三千票を得票として一議席を得たことでした。彼はオレンジ自由国からアムステルダム市会へ派遣される「大使」という資格を得ました。それこそ対抗社会から体制社会へ遣わされる対抗文化宣伝のための特命全権大使でした。プロボはここで解体されカプター（Kadaver）——いたづら小鬼——の運動に切り換わった。一九六九年五月でした。

(つづく)

失業者独言

鈴木 光 一

世の中、不景気だという。失業が増加しているという。僕も失業中だ。だが失業もまんざら悪いものではない。極端な恐慌になると餓死する人もでるのだから、資本主義国家の日本のような社会ではまず身売りが底辺となる位で餓死するものはなかなかでてこない。ともかく日本という場所の中には食い物はなんとかあるのだから餓死するまでに行かないのだ。

なぜか、日本はかねてより失業者の数が少ない。不景気で少ない、という理由ではなく、働いていない人が少ないのだ。僕は昼前から家の近所をうろつく。どうも僕ぐらいの年でうろつく人が少ない。僕も少し気弱わになつて家にとじこめることにする。若い人が町に少ししかいなくて会社や工場にしかないというのは異常ではなからうか。江戸時代、明治大正の頃だつてこんなことはなかっただろう。青年時代という、時間的余裕のある若い時代はなにをするにしても意欲と決断があれば実行できる。そんな時代を会社や工場でどうやら飯を喰うために働いているのだ。青年が働かなくても喰っていいけるような社会にすべきだ。甘えてるかな。

失業中というのはたのしい。何をするわけでもないが、一日中自分の好きなことを（僕はできていないけれど）できそうであつたのしい。所が最近、雇用状況が悪化している、と僕を不安がらせる人が多くなつてきたので不安になつてきた。失業を少し考えよう。

失業が増えてくると初期には労賃が安くなる。賃下げは行なわれなくともインフレで労賃は下落する。しかしそれにもなつて失業者救済のためかいろいろの機構が作動する。筆頭は物価の値下げだろう。これは実際の値

下げが行なわれる。ついで失対事業、お布施まである。がなんといても逸品は会社の家族における失業者を予定した労賃形成だろう。

失業しても餓死するものが出ないのの一つには他国の収奪をやっているからだろうが、実際は恐慌が交換価値の変動が主であつて物資の欠乏からではなく、物資の欠乏は原料入荷の調整などを通して行なわれるにすぎないからだろう。

だが、こういう機構が社会にあるのなら、失業が増えるのは歓迎すべき点もあるのではなからうか。第一に働かなくとも食っている人を増やし、時間的に余裕のある人が増える。自給自足的に社会でも個人でもする傾向もあるだろう。更に資本を実勢に近づける役目もあるように思う。

インフレは高物価にはねかえるが、その高物価が消費能力においつかなくなると不景気になる。しかし、今の不景気を見ていると雇用悪化、失業の増大という順は流動性の高い職域のみで行なわれ、いまだインフレ基調はなくなっていないように見える。そして、どうも流動性の高い職域というのはインフレを助長してきた職域、すなわち物理的労働で、一貫して上昇してきた手数の多い職域のように思えるのである。あるいはこれが基点とな

って確かに失業は増加するかもしれないが、インフレは落ちついてくるのではあるまいか。

農村等において需要低下にともなう設備投資の削減は失業者に手いたい仕うちとなるだろう。これはやり切れないことだけれど常雇用への道しかないのではあるまいか。常雇用そのものが資本主義における能力選別の失業対策になっていることは問題であらうが。

失業していると金銭がまず、つまつてきてこまる。どうにもならず、そのたび毎に少々喜捨をうけて生活している。金銭とはにつききものよ、というぐあいになる。近々働こう。

失業と無職は違うのかもしれない。失業は働きたくとも職がない状況らしいから。しかし、そうしたら失業者なんか世の中から居なくなってしまう。一人として、まさか、ただで金銭や物資が得られるのなら、働きたいと言ふものはおるまい。失業を働きたくも職がない状況として、労働権として考えるのは、人間性を無視して大衆としてとらえることであり、又労働の発生を無視し、形成された社会における必然性しか考慮しない、あまり良い考察法とはいえないものではあるまいか。

思い出のニコマ

杉藤 二郎

(一) ワンバク時代

一騎打ち(一九一八―一九二〇年頃の話)

私の中学時代はグループでは、ケンカをせず自分達仲間の中から一人を選びだし闘かわせたものである。私は、オッチョコチョイでおだてられるとすぐ飛出して相手かまわずケンカをしたものである。私は、小さい時からケンカ早く、メリケン杉などと呼ばれていたものである。ある時、明倫中学の三年生と練兵場で決闘することとなり、その騎士に私が選ばれた。我輩の慶知第一中の生徒と明倫中学の生徒達が円陣をつくり、そのど真中に二人の人間が参つたと声のかかるまで闘うのである。周囲の取巻き連は第二第三と次の選手を待機させて腕組みなどして傍観している。私は、例のとおりタオル(その当時は日本手拭)に小石を包み、手拭の石が包んでない方の端を持ちそれをぐるぐる振り廻し相手の手許へ飛びこんだ。指の間には、キコク(カラタチのこと)のトゲをはさみ、そのゲンコツで相手を倒す。その速さ一瞬の出来事であり見物人にはなにがなんだかわからない。勝敗は

瞬間についてしまった。呆気にとられた敵のグループは控えの騎士^{ナイト}を出す暇もなく降参を申し入れた。その場はそれで収まったが、その話を聞いた牛田という傘屋の小僧が治らず、十五日の休みに御園御門で決着をつけようと僕の所へ使いをよこした。私は、一人で一晩作戦を練った。その晩から私は吹矢を竹で作ることに懸命で勉強はほったらかしであった。側で高等学校の試験勉強をしている兄は何をしているのかと一言云っただけであとは黙っていた。牛田の小僧と闘かう日がきた。

私はソット家を抜け出し急いで約束の場所御園御門へ着いた。そこには、もう小僧が来て喧嘩仕度をして僕を待っていた。立会人が一応の喧嘩ルールを話すといよいよ闘いが始められた。小僧は筒袖の着物に雪駄をはいて手には洋傘の骨ばかりを束ねたものを持っていた。合図と共に私はすかさず相手の手許へ飛びこんでメリケンを一発くらわせた。相手が眼をつむった瞬間相手の小手を吹矢の先でチクリと突いた。相手の小僧は痛さに耐えかねたのか逃げ出してしまった。これで闘いは終わったが治まらない明倫中学の生徒達は家に帰り親に話した者があるらしく、その二、三日後に私は校長室(慶知一中)に呼出された。母にも呼出しがきていたようである。母と共に登校した私は何食わぬ顔で校長の前に出た。

当時の校長は、マラソンで有名な日比野寛先生である。私はこれまで何度この校長から説論を受けたことがあり、私もどんな結果になろうと覚悟はできていた。その日の言い渡しは三日間の停学であった。よくまあ放校にならなかったものだと思わなかった。そのことがあって以来、全生徒の素行はよくなった。しかし私は今更でもあるまいと相変らず喧嘩しては生傷の絶え間がなかった。それでも中学四年の三学期からは一切を忘れて勉強に専念した。お蔭で今日を迎える事ができた。

(二) 和歌山時代(一九三二年)

和歌山市の高松という所に、壱岐(玄海灘の壱岐島出身)という五十歳位の女の人がいた。この人は、自分一人で消費組合的な物を作り、多くの商人を敵にまわし闘っていた。今にして思えばこの人は偉大な社会主義者で世の在り方、社会の仕組み等私に説明しては、これを改革するのだと気焰をあげていた。いわば私の恩師であるこの家のある高松とよぶ町は、和歌山城から、和歌の浦へ行く間の電車の停留所である。有名人としては、衆議院議長をしたことのある、山口喜久一郎(松山常二郎の子分)が住んでいた。壱岐さんは稼業として下宿屋をしていたが、誰でも入れるということではなく自分の間い

に答えた答え方によって下宿人をきめる変り者であった。家族は三人で、そのばあさんと二十歳前後の娘二人の計三人暮らしであった。夕方訪づれると、晩飯前に必ず一席かのばあさんの訓辞を聞かねばならなかった。下宿人は彼女のすることをみなバーサンと呼びなついていた。或時姉嬢が急に居なくなった。ばあさんの話によると、姉嬢が男を欲しがって仕方がないので、そんなに男の尻を追っかけるなら女郎にでもなつたらよい。女郎が如何に自由がないか知ることができたらよい。女郎が如何に自由か家を娘が飛び出したら如何に淋しい思いをするだろうか等と一人悩み知人に相談するべく、ある日家をあげた。物件を済ませて家に帰ったら、姉嬢が家出したのか家には居ないということであった。

その後僕は自分の事にとりまぎれて、忘れるともなく数年経ったが、偶然その姉嬢の身の上を知ることになった。

家出した時姉嬢は、和歌山駅前にある桂庵(口入れ屋)を訪れていた。姉嬢は真理子と呼び丸顔の眉目麗るわしいよき女の子であった。その真理子は桂庵の口車に乗って大阪の飛田遊郭へ身売りさせられてしまった。最初の契約では三年で五万円ということであったが、店着、普段着、寝巻、夜具、布団、枕、小箱、ちり紙等思わぬ出

【海外だより】

▼米国のペンイ君は『スモーク』紙を出している。私信が来たのでスモーク(煙)の意味を訊ね、それがツルゲネーフの「煙」かと問うと折返し手紙がきた。次ぎは彼の書いた日本文だ。

▼SMOKEという名については英語のことわざが二つあるんでしよう。

① "There is no smoke without fire"

② "Where there's smoke there's fire"

また、私のもっている「ことわざ故事金言小事典」によると、日本語も一つずついわゆる否定・肯定的なことわざがあると書いてあるそうです。

① 「火のない所に煙は立たぬ」

② 「煙あれば火あり」

この英語と日本語のことわざはある関係があるかどうかよく知らなく、または日本語のが日本に始まったことあるいはある中国のことわざからきたことも知りません。今日の中国人は「無風草不動」御存じのとおり「風のない所に草は動かない」の意味)のが一般に用いられているんだそうです。とにかく、SMOKE新聞の意味は大体その②の肯定的なことわざからきました。だから「煙」はSMOKE新聞を出版することのような目に見えるアナキズム活動で、今見え

費がかさみ前借は瞬く間に十万円をこえた。その結果三年が五年となり七年となって泥水稼業が身についてしまい、青春はまたたく間に消えてしまった。挙句の果ては、ヤクザのボスにひかされて、田舎の売春宿へ売られてしまった。その宿へ泊りに来た土建屋の青年に過去を寝物語に聞かせたところその青年が、この事を親方に話し、その親方の助けで青年と真理子の二人は広島へ逃げてしまった。

広島へ落ちのびた二人は暫く広島で生活していたが、だんだん西へ西へと行って、遂に鹿児島まで落ちのびていった。その間何をして暮らしたかもわからない。私があったのは一九四八年戦争も終り漸く人らしき生活が社会に蘇がえってきた頃である。九州の炭坑にいた私が賃金問題で上京し、その帰途、母の家へ寄って母からその話を聞き驚いて、真理子の居るといふ京都に立寄った。お寺の一角を借りて住んでいた真理子をみたが、その後どうなったか私は上京してしまったので不明である。壱岐さんも墓の中で泣いていることだろうと時々思う。下の娘もどこかで生きて居る事であろうが、とんと消息もなくわからない。壱岐さんの社会主義も一代でついえた。

× × × × × × ×

えない「火」はアナキズム革命です。(ベンイ「紅」)

▼英国の政治風土で、現在北アイルランドの独立問題は、IRAの爆弾闘争を含め泥沼化している。これをプロテスタンとカトリックの宗教戦争だと見る向きもあるだろうし、そうではなくて言語・風俗・習慣の差異、ケルト族の独立闘争に発展しているのだと考える人もあるだろう。アーサーモイゼは無差別の爆弾騒ぎに対し次ぎのように発言している。

「北アイルランドではビールを飲みにはバブへ入る前には一、二度ためらうのが習性になっている。公共の建物に入るには上着の裾を捉えられとか、労働者の家や集会所が煙を吹きあげ、そこへ駆けつけるパトロールの足音を聞きつくと足早に立去らなければならない。これが英国の風景であり、英国人はむしろ好きこのんではいないのだ。爆弾がさく裂するたびに千切れた肉体がさく裂散らばった街路に横たわる。左派の人は抗議するけど、抗議が有効なのは最初だけなんだ。最近では国際社会主義者グループが叫んだ『すべての社会主義者はこの無意味な殺人に抗議しよう。バーミinghamとロンドンでの労働者に加えられた恐るべき爆弾には言訳けはたない。』時宜を得た発言だが遅すぎた。不幸なことに多くの同志達は爆弾が隣りの町でさく裂するなら、政治暴力の悪だっけ受入れるのだ。長い間アナキスト運動ではアナキズムの名において暴力の苦いロマンチズムで養われてきた。病んだ心の無思慮な行為が専断に向けられたものであれば政

治的暴力行為として喝采されたのだ。だが死んだ犠牲者は問題の解決にならなかった。：私の信じるところでは、構成員の生命が危険にさらされた時、自衛のために社会が団結するのは正当化されると思う。人はもし状況が要請するなら、一晩で自分の宗教なり政治信条を変えるだろう。何故なら歴史の長い暗い夜はいつか彼のために夜明けをもたらすと知っているからだ。けれど男と女、子供達が膚色や種族のために死に直面するなら、その時こそ彼等の家族や友人を守るために武器を執るのが義務である。人間にある唯一の権利は生き残ることだ。この権利を守るためには道徳も虚偽になる。マラテスタは正しい戦争について語り、人は何が正しく何が正しくないか議論する。けれど処刑隊がドアを叩くなら、その時こそ武装すべきなのだ。他の街の別なドアを叩くなら、同志諸君、恐れながらも闘う人に加担しよう。決して処刑隊に加わらないことだ。自由やアナキズムの名において一度でも無実の人の命を奪った君の運動は無効になる。君が審判者になり処刑人になったら、一体誰が無実の人を守るのだ。政治的テロリズムは革命の淫売婦だ。無責任に男達をもてあそび、無力なままにその作りだす血ぬられた獲物を得ようと、より大きなテロをするのが究極の目的となる。アイルランドでは日常的に爆弾と銃弾にさらされ、プロテスタントとカトリックの労働者達は日常的な恐怖にさらされている。というのは右派がアイルランド全土をアイルランドの神話と民俗崇拜の旗じるしに隠れて掌握しようとしているからだ。：わ

れ等アナキストにはただ一つのメッセージと運動がある。無実の人を守り、公然とあの犯罪を批難しよう。」

★野火☆野火★

▼読書会と共同保育所(折内和喜君から)

人間関係の在り方を問い、模索しよう、みんなで本を読み、それについて個々人が疑問、問題を出し合い、それらひとつひとつをみんなで考えてゆく、自分の意見をはっきり述べ、相手の意見もよく聞いて、どこが違い、それはどうして違うのか、またどこが共通するところなのかをはっきりさせてゆく中で、個々のかかえている問題、疑問を、参加者全員が、それぞれ自分の立場から問いただしてゆく。こうして16回にわたる読書会が4月26日を第一回として8月17日まで、主として四人によって続けられた。内省的な、真剣に問いただす会である。さらに次の如く続けられる。

○本『伝習館・複数の母たち』『伝習館の無名と共有』

○日時 月の第2第4土、一泊二日、4、6PMに集合

○場所 第2土が折内・大石のところ 三九四―九二六八

(金曜までに連絡)

第4土が田尻のところ(前記に連絡の上)

○食事 買出しから後片付まですべて読書会に含まれる。食事

事は一律百円(食事のみする場合が百二十円)

○時間の都合のつく人は早めに来て下さい。

▼石神井に共同保育所をつくらう

隔離施設としての保育所というのではなく、大人と子供の生活空間を別々にしないで、みんながそれぞれの特色を出し合い、生かし合って共同して生活して生けるような。

反権力・反差別のもとに集団を形成して社会建設を！ 全国に地域共同体建設を！ 石神井に地域共同体を

(中野区南台5―13―8浅間アパート内・大石または折内)

▼瓜生祐喜君から

不定期連帯紙「鎌二人委員会」No.3・4が来た。11月23・24日第二回長野・宇都宮・会津三地区無政府主義者連帯集会開催を報じている。関西の連盟準備会の連帯アピールもかけ、全国的な連合体への運動の一環である。このような運動の積上げによって全国的な連合体となつて行かねばならない。

×

▼今、米よこせ母子像再建のよびかけが起っている。カンパ要請が来ていたのだが、うかつにも資金募集期間が前年十二月三十一日までなのを見落していた。したがってカンパの要請はしませんが紹介します。

像は故白石寛氏作のもの。米騒動(一九一八年)と米よこせ(一九三二年)の運動を七〇年代の高物価に対する運動へ結びつけるためと闘いの礎として建てようというものです。建立場所は未定、時期は今年五月頃をめどに、ということでおもに生協運動に携わっている人々が中心に行なっています。

連絡先は左記。

東京都渋谷区千駄ヶ谷四の十三

生協会館「生活協同組合 久友会」気付

米よこせ母子像再建の会

×

ヨーロッパ資本主義諸国は国際交流の進展に伴って国内資本主義の是正をせまられている。各新聞社は新年、各々それを、特集し、連載している。倒産企業の労働者管理、労働者の経営権参加、新しい型の株式会社、いろいろの試みが労資双方より不評をおうとも試みられているのだ。

ひるがえって日本の現状を見るに、いくつかのそのような試みがあっても、社会的企業のあり方の方向としては定着することなく、未だ労働運動は経済闘争を中心とし、政治的圧力工作に熱中している。労働運動も又、人の解放を将来に向って、なすべきではあるまいか。

自主管理に関し、最近幾多の著作、論文を見るにつけ、自主管理を小手先であつかい、労働時間のこと、労働環境のこと、人間性にふれることなく、合理化と管理方法の一形態として語られているように感ぜられる。労働が自由を侵すものであること、労働の価値付与とそれ故の価値増加と搾取を見つめ、人の解放の方向で自主管理を見つめて欲しい。

資本主義が内部から改革を試みている時、計画、空想さえ開陳されない日本の現状は憂うべきではあるまいか。もつとたくさんの計画、空想を。それは終始のつかないおしやべり

の羅列になってしまふかもしれない。しかし、いまこそ資本主義の改革期と共産党ファシズムの間で、社会における無政府の形體作成のためのおしやべりすべきではあるまいか。(Y)

×

▼十二月二十一日、水道橋の庄屋で老人やりベルテールの読者などで忘年会を行なった。約二十名の方々がみえられ、それぞれおもいおもいの一ときをすごされた。会の設定に少し問題があり、一部の人々にご迷惑をおかけしてしまいました。ここであやまります。申しわけありません。(よしば)

現代迷文鑑賞

(1)

I君はリベルテールの読者であり投稿して呉れる。旧年十一月同君は勤務先の信用調査機関で、突然解雇になり以来地位保全の闘争を開始したが、それでもとも世間は不況を口実とした合理化が行われ、現在苦戦中だ。同君は二度ビラマキをして次の迷文を受取った。

君に警告する

吾々の生活に干渉するな

十月十二日当社社員宛として君の配布した文書を読んだ。

だ。総て君個人の問題であり、君の偏狭な主観に過ぎない。これに関して吾々は詳細会社の立場を聴いた。会社

に対しては種々要望するところもあるが、こと君の解職に関しては全面的に会社の立場を支持している。君の暗く偏屈、卑屈な人格については、僅かな日数乍ら机を並べていた者はいずれも眉をひそめていたものである。特にピラの配布以来、君の左翼的言動に同調している者は一人もない。

歳末を控えて吾々は自身の生活のために日夜努力している。残念乍ら社会観を異にする君の偏屈な御意見を拝聴している暇はない。

今後一切吾々の生活に干渉しないでくれ。そして、吾々の清潔な職場へ足を入れてくれるナ。

昭和四十九年十一月十三日

株式会社 東京 ○○○

従業員各部代表

文章は書き手の世界観を構成する。まずこの文の用字からみて筆者は中年から高年層とみた。吾々、偏狭な主観、日数乍ら、眉をひそめ、左翼的言動に同調、等は年配を表わしている。また①により彼が社員を監督する立

場にあるのも明白だ。だからI君の言説を個人の問題であり、主観だときめつけ、会社の立場を聴いた：として中間職の公平さを装うことが可能になる。②は全くI君への中傷である。へ机を並べる友がき」という唱歌があった。その連想からしてへ机を並べていた者はいずれも眉をひそめていた」となるらしいが、これによってI君がどんなに陰險猖獗であるかを具体的に示した積りらしい。そして追撃が③へ君の左翼的言動である。まとめるとI君は偏狭な主観でピラを書き、さようなピラをマク者は思うに暗く偏屈、卑屈な人格で、従って左翼的な言動をするのである：となる。

これに対してへ吾々へは自身の生活のため日夜努力しているのだから社会観を異にする者の意見を拝聴する暇はない、と言う。なんとも結構な職場ではないか。ここでは自分の生活のために働く者は善であり、未組織の場で組合を作ろうとするのは左翼的なものだ。I君はへ社会観を異にするの文句は身元調査によってアナキズム史研究の前歴がばれたからだのしているが、そうでなくとも社会観が違っているのだ。読者はこの一文をみて、哄笑するもよし、だからダメなんだときめつけるもよし、部分的にもっともとうなづくもよしだが、ぼくとしては、いい年をした何々部の長と名づける肩書の人達が連名捺

★編集室★★★★★

★昼からミゾレの降りだした今日、コーヒー代の高さは外の寒さより身にします。(甲斐一)

★一月、年初の集りがあつてそこで日氏に会い、「リベルテール」発行に積極的に参加していただけたことになった。まだ当分は雑誌の内容、形式、目的などで発行体内部はまとまらないだろう。しかし段々とまとまって来つたと思う。これからどうなるのか、どうするとか、何度も意見の調整が必要になってくるだろう。(山本二夫)

★今号から本文が写植製版になる。前号で購読料納入の訴えをしてから、君子豹変の趣きがないでもないけど、これは全く「リベルテール」読者の善意によるものであり、本誌が発展のモチベーションに立っているとして喜ぶべきかも知れない。個人誌ではないのだ。アナキストの共働の場であり、外へ向つて広報するスピーカーかメガホンだ。無闇に音量をあげて公衆の良俗を乱さないよう、さりとて処女の如きはじらいだけで内容はアバズレだったとは：共にいただけないお話。(はしもと)

★リベルテールへ投稿をお願いします。

表紙絵から論文、いろいろなこと、情報など

印まで強いられているのを見ると、先ず宮仕えの悲哀を覚えるのである。組織の中で上手に泳ぐ人達も何かの機会で見解の表示を求められる。その場合、大勢に従うのが一番だが、それを重ねると、初志はおろか何もかも失なってしまう。ドストエフスキー流に言えば「マドンナ」を理想とした男が売笑婦で満足するようになるのだ。更に社会観を異にするだけで「偏屈」とされたのでは、またそれが解雇において僱主の心理的満足を構成する有力な要因になっているのでは、人は信条や宗教によって差別されないとする憲法違反であり、民主主義の下での職業選択はおろか就業さえ締めだされることになりフェアとは言えない。吾々は自分の生活のために日夜努力してゐてファシズムへ突っこみ苦い経験をした。彼等にはそれさえ判っていないようだ。

I君は地位保全の訴えを起し闘うという。カンパ要請もリベルテールに来ています。連帯と激励を寄せて下さい。(文責 はしもと)

第64回秋水忌

唳唳と寒空冴えて秋水忌

一波万波初原の海に煌ける

友に聞く絞刑跡の観音像

無政府共産求めるうちの人となる

(莫空人)

エンリコビルでの定例活動

◎共学読書会(初心者の方のみ)

第二、第四日曜日午後一時より夕方迄

◎エスベラント語学習会(興味のある方だけでも可)

毎週水曜日午後七時より

東京都大田区西蒲田7の6の4 ☎(七三五) 一一四六
国電蒲田駅より徒歩3分

★リベルテール・サロン

■水道橋東口下車徒歩2分「コージ」■毎週火曜日 午後6時より8時頃まで ■となたでもどうぞ ■

■一九七五年一月十四日から再開